の私は、クラブの土台は創立から5年間、北岡さんの代表時代（世話人選挙制以前）にほぼ造られ、次の5年で屋台骨がその上にのった、と考えていた。

10周年の翌年には、親睦･研鑽部門重視の会員が増えてきて、クラブの目的と活動の方向性についての議論が再び活発化した。例会で討議を重ねた結果、10名を超える退会者が出て、平成17年4月の会員数は42名となった。

そしていま、この「雨降って地固まる」の時を経てこそ、クラブの基礎部分が徐々に出来上がってきた、と思っている。

「くぐひ」創刊100号おめでとうございます。これからもどんな飛翔姿を見せてくれるのか、とても楽しみです。

― 編集人の思い出 ―

嶋村 堯敏

「十年一昔、過ぎてしまえば早いもの」。しかし「くぐひ」創刊はこの2.5倍もの昔になり、それなりの歴史を積み重ねてきましたが、これも数多くの執筆者と読者（殆どが執筆者でしょうが）に支えられてきた結果だと思います。いまになって、この間の多くの執筆者の顔を思い浮かべてみると、ほんの少ししか時間がたっていないような懐かしい感じがします。

「くぐひ」の編集者になった当座は何をどうすれば良いかわからず、先輩の真似ばかりでした。そして当時紙面作りに苦労していた新米編集者の良き理解者、助言者が版下作成者でしたし、この関係はいまでも変わっていないだろうと思います。

苦労したのは原稿の確保で、いろいろなデータを説得材料に投稿をお願いしてきましたが、どうしても書くのが苦手の人もいて、そのような人に書いてもらったときには大袈裟にいえば「快哉」を叫んだものでした。

編集人の義務として毎号書かねばならない編集後記は苦労の種でした。投稿された文章の紹介は当然ですが、色付けのために「くぐひ」の発行時期に世の中がどんな様子であったかを短文に書いたほか、季節に即して俳句や和歌を載せるようにしました。それぞれ、言葉に対する鋭い感覚、機微や優雅さを求められるため、詠む才能がない私は専ら鑑賞に徹し、詠む楽しみではなく、名句集などからの選ぶ楽しみを与えられたことは役得ものでもありました。

10年間の想い出は幾つかありますが、中でもいま休会中の西村さんとのコンビの中で、創刊以来の「くぐひ」を載せたＣＤと、号別・執筆者別の索引を作ったことが一つ挙げられます。面倒な作業の繰返しでしたが、嫌な顔を見せずに一緒に作成してもらい、「くぐひ」を資料として利用し易くする良い手段が出来たと思います。

いまは編集会議から少し距離をとって、反省会中心の参加になっていますが、自分で文章を作ることより難しい編集の作業を通じて、いいメンバーと一緒に「くぐひ」を作ってきたことは私の生き甲斐の一つでありました。

探求クラブの絆さらに太く逞しく

佐々木 黎治

「くぐひ100号」発行まことにおめでとうございます。

短い期間とはいえ編集に携わった者として、こんなに大きな喜びはありません。

私の前に10年もの長い間、編集人としてご活躍された嶋村さんから、「くぐひ］創刊号からのバックナンバーを引き継いだ時、その歴史の重みと会員皆さんの温かい思いも引き継ぐ・・・ことに、責任の重大さを思い知らされました。

編集の苦労はネタ（記事）を拾うことですが、これは案外に容易でした。というのもわがクラブの特性というか美点？である、反省会で聞き耳を立てていれば、さまざまな「あること・ないこと」が入ってきます。編集委員会のあとの反省会などは「やぶ茂第2編集室」とでもいうべき存在でした。

ここで得た情報から故黒川さんをはじめとする、磯川さん、宮沢さん、北岡さん、北村さん、小山さんの「修学旅行シリーズ」が飛び出したり、「私の趣味」の欄では皆さんの豊かな経験と蘊蓄がとうとうと語られるなど、原稿依頼にも快く引き受けていただいたことには感謝あるのみでした。

ただ一方で、旅行シリーズの先陣を切っていただいた黒川さんが「掲載紙を田舎の友達に送るので30部増刷してほしい」と心待ちにしていましたが、出来上がって間もなく他界されたことは、故郷と友達への惜別だったのでしょうか。ともあれ「くぐひ」はクラブ皆さんの絆を深め、支えになると確信しています。

初空やくぐひ100号永久（とわ）に翔べ　　虎山

私の趣味

「歌は世につれ、世は歌につれ…」

畑中 英男

昭和 15 年生まれの私は戦中、戦後に小さい頃を過ごし、当時食べ物は乏しく、娯楽と言えばラジオ・映画ぐらいで、祖父がラジオをよくかけていたので私も自然と音楽を耳にした。就職したのがたまたまレコード会社で、営業だったので、東京―大阪を往ったり来たりして、今でも「歌は世につれ、世は歌につれ…」と言われるように、歌（曲）を耳にすると、その歌で「当時自分は何処にいて、どういうことをしていたのか」を自然と想い出す。お客さん（ディーラー）とそれこそ何でも付き合わなければならず、酒、ゴルフ、麻雀…等々一応やり、それなりに皆楽しかった。

退職して近年体力・気力・金…が乏しくなり、残った唯一の趣味が音楽。カラオケで歌うのが流行歌（演歌）、逆に聴く（ＦＭ、ＣＤ…）のはロック、ヒップホップなど洋楽が中心なのは不思議な気がする。

元来ジッとしているのが好きでなく、毎早朝のウォーキング、週一のプールなど体を動かして外へ出かけるのが好きで、昨年末大阪からこちらへ引っ越して来て、湘南の海は好きだが、京都・奈良のように気楽に散策できるところが少ないのはちょっと寂しい。

スポーツは何でも好きで（ＴＶ観戦）野球は巨人大鵬たまご焼と言われたときは巨人、今では阪神。相撲は千代の富士。

日本中大いに盛り上がったラグビーは、高校大学の後輩で、53 歳でなくなった平尾、大八木、林…といったメンメンが連戦連勝していた頃から好きになり、今回大いに楽しませてもらった。迫力あり男らしく、それでいて礼を重んじ、戦い終わればノーサイドのラグビー精神は今の世の中に最も必要ではないかと感じている。

親睦研鑽部会紹介

談話室

田中 力

「談話室」について掲載するのは今回が 3 回目となります。

2014 年春（77 号）に「復活した談話室」そして 2016 年夏（86 号）に「雑談は健康寿命を延ばす元」です。毎月第三水曜日の昼過ぎから三々五々と大概の常連メンバー7～10 名程が＜ピアノサロン高松＞に参集します。特にテーマは決めていなく多くはその時々の思い付きの話題から始まるのですが話しが方々に拡散し結局何を話したのか不明の状況になります。ただし時々は我ら探求クラブの活動そのものに言及し真面目な話し合いになります。例えば今年度新たに採用、実施した世話人の選出方法も当部会から派生した産物です。ややもすると第二の世話人会的要素も含んでいますがクラブ内で横断的に話し合いが出来る場はここ談話室しか無いかもしれません。また更に振り返れば記録と記憶に残る「25 周年記念行事」が実現しそのキッカケを作ったのも「談話室」です！

参加されているメンバーも古参からうるさ方の中堅どころ等々多彩です。

また午後の部の後半を「極楽部会」と抱き合わせで実施しているところも特徴です。

以前はどうしても直ぐ健康、医者通いなどの話になって年寄り臭い話題になりがちでしたがそれらは後半の部で！とうまく構成されています。

当部会の大きな役目は①大いに雑談してボケ防止！で健康寿命を延ばす。②新規部会の掘り起し等の当クラブの活性化に繋げる＜傾聴するボランティア活動＞と考えます。

ただ最近、多少マンネリ化していることが心配です。そこで先に述べた様に当クラブの活動を横断的かつ客観的に俯瞰できかつ理解できる場所として最近入会された方は是非とも「談話室」に顔を出されることをお勧めします。

「くげぬま探求クラブ」はあなたの入会をお待ちしています。
「会社人間から社会人間へ」を目指す方々は「発行人の奥村」までご連絡下さい。
ホームページアドレス　http://kugenumatankyuclub.web.fc2.com/
「くげぬま探求」または「鵠沼探求」で検索してください

～例会・各部会活動報告～

９月　September

○例会 7 日 出席者 45 名 在籍者 55 名(休会 2 名)
○行事 ①藤沢市児童館職員研修会への出前講座 24 日 7 名②ひょっこり鵠南島 28 日 7 名
○世話人・委員会 ①世話人会 4 日 ②くぐひ制作部 11 日 8 名・くぐひ 99 号推敲 ③メディア委員会･ＨＰ制作部 休会。
○鵠沼松が岡公園愛護会 8 日 10 名 炎天下で作業
○藤が谷公園愛護会 15 日 6 名 台風被害大、清掃
○ヤングハーツ 4 日幹事会・練習 23(14)名 5 日ラフターヨガ 7(1)名 10 日鵠生園(ホーム)17(8)名 19 日鵠沼南地区敬老会 15(10)名 20 日鵠沼東地区敬老会 14(10)名・藤沢病院(さくら棟)13(8)名
○おもちゃの病院 8/22 日 13(1)/12(1)名 来院 14/11 名 新患 6/12 名 退院･引取 4/4 件 当日完治 4/6 件
○子どもと遊ぶ会(鵠洋児童館) 14 日 7(1)名子供 13 名 輪ゴム鉄砲組立、的当て
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 15 日 8(2)名 鵠沼囲碁同好会 2 名､子ども 19 名 (将棋 17 名 囲碁 2 名)
○災害研究部会 6 日 6 名 公民館まつり展示ついて
○極楽部会 18 日 11 名 緩和ケア・大人の言い換え
○サロン会 21 日 13 名　大勢の参加、料理･酒･話題
○健康部会 27 日 7 名 箱根旧街道
○探訪部会 17 日 7 名 鎌倉史跡散策(寿福寺･化粧坂等)
○カラオケ部会 16 日 6 名 次月から部会長交代
○農園部会 2/12 日 6 名 片付け/苗植え
○談話室 18 日 10 名 自転車保険等
○スケッチ部会　休会
○デジタル情報部会 23 日 14 名 メールシステム等
○ヤングブラザーズ 公民館まつり向け稽古 13 日 19(7、先生 3)名 28 日 21 (7､先生 3) 名
○近代史を語る会 12 日 14(6)名 昭和の時代 15 回
○企業研究部会 25 日 11(3)名 岸田劉生展
○なつかしの名盤愛好会 16 日 10 名 ドリス・デイ
○俳句の部会「似歌会」 10 日 10 名 兼題「夜長」「風」 辻月から部会長交代

１０月　October

○例会 5 日 出席者 42 名 在籍者 55 名(休会 3 名)
○行事 ①第 43 回鵠沼地区公民館まつり 19･20 日 古本市、手作りおもちゃ、囲碁将棋コーナー、焼きいも販売、ヤングブラザーズ公演、災害関連情報展示 ②手作り工作出前講座 片瀬小学校 31 日 14 名 生徒 120 名 先生 4 名
○世話人・委員会 ①世話人会 2 日 ②くぐひ制作部 10 日 9 名 100 号第 1 回編集会議 ③メディア委員会･ＨＰ制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 6 日 15 名 大量の落葉等
○藤が谷公園愛護会 13 日 9 名 清掃､花壇の準備
○ヤングハーツ 2 日幹事会･月初練習 23(14)名 ラフターヨガ･鵠生園(ホーム)･藤沢病院(さくら棟)台風で中止 29 日鵠生園(ホーム)17(9)名
○おもちゃの病院 13 日台風で中止 27 日 8 名 来院者 16 名 新患 15 名 退院引取 3 件 当日完治 7 件
○子どもと遊ぶ会　休会
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 公民館まつり 19,20 日 10 (3)名 鵠沼囲碁同好会 4 名 盛況
○災害研究部会　2/14 日 4/5 名まつり準備 26 日 5 名 鵠沼地区総合防災訓練で災害展示パネル展示
○極楽部会 16 日 8 名 漢方薬
○サロン会　休会
○健康部会　雨天中止
○探訪部会 15 日 4 名 鎌倉史跡散策(常盤･大仏坂等)
○農園部会 6 日 7 名 作業実施
○カラオケ部会 21 日 7 名
○談話室 16 日 9 名 忘年会での地産地消等
○スケッチ部会 17 日 3(1)名 横浜･港の見える丘公園
○デジタル情報部会 28 日 10 名 アマ無線､ドローン等
○ヤングブラザーズ 11 日台風で中止 18 日 21(8,先生 2)名 20 日公民館まつり 22(8､先生 3)名 26 日 19(7､先生 3)名 28 日 21(7､先生 3)名 藤沢パークホームズ公演
○近代史を語る会 10 日 14(5)名 昭和の時代 16 回
○企業研究部会 23 日 6(1)名 Ｆプレイス
○なつかしの名盤愛好会 21 日 8 名 音楽以外でも盛況
○俳句の部会「似歌会」 8 日 10 名 兼題「神に関連する句」「靴」

１１月　November

○例会 2 日 出席者 43 名 在籍者 55 名(休会 3 名)
○行事 ①ゴルフコンペ 11 日 9(2)名 鎌倉パブリック ②ボウリング大会 13 日 12 名 江ノ島ボウリングセンター ③鵠洋児童館わんぱくまつり・焼きいも 16 日 10(1)名 児童等約 350 名 ④元気塾･将棋講座 28 日 9 名 元気塾:子供 12 名･ボランティア 8 名
○世話人･委員会 ①世話人会 10 月 30 日 ②くぐひ制作部 13 日 10 名 第 100 号第 2 回編集会議 ③メディア委員会、ＨＰ制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 3 日 16 名 大量の落ち葉清掃
○藤が谷公園愛護会 10 日 10(1)名 花植え準備、12 日園児(ルーテル幼稚園・キディ保育園)との花植え 10 名 園児計 75 名 先生 9 名 保護者 9 名
○ヤングハーツ 1 日ささえ橘 8(4)名 16 日幹事会・月初練習 20(10)名 12 日鵠生園 (ホーム) 19(10)名 15 日藤沢病院(さくら棟)16(10)名 25 日ワインセミナー(亀吉本店)5(3)名
○おもちゃの病院 10/24 日 13(1)/13(1)名 来院 7/37 名新患 7/21 名　退院引き取り 1/5 件　当日完治 2/8 件
○子どもと遊ぶ会 16 日 焼いも販売 10(1)名 行事に記載
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 17 日 7(1)名 鵠沼囲碁同好会 2 名 子供:将棋 9 名､囲碁 0 名 保護者 4 名
○災害研究部会 1 日 5 名 災害対応
○極楽部会 20 日 10 名 糖質と AGE
○サロン会 16 日 13(1)名 多彩な美酒と料理
○健康部会 雨天中止
○探訪部会 19 日 8(1)名 鎌倉史跡散策 (甘縄神明神社･御霊神社･極楽寺坂等)
○カラオケ部会 18 日 7 名 多様な 45 曲
○農園部会 3 日 7(1)名　大根･かぶ種播き
○談話室 20 日 8 名 健康のカギはつながり
○スケッチ部会 休会
○デジタル情報部会 25 日 10 名 ガラ携の今後､インターネットが海外ケーブル経由の理由
○ヤングブラザーズ 8 日 18 名(6､先生 2 名) 23 日 22(8、先生 2 名) 春コンに向けて再スタート
○近代史を語る会 14 日 15(5)名昭和の時代 18 回目
○企業研究部会 9 日 4 名 横浜美術館
○なつかしの名盤愛好会 18 日 6 名 カンツォーネ等
○俳句の部会「似歌会」12 日 11 名 兼題「冬旱」「酒」

ビフォア・アフター

地域の社会人間として歩み始める

玉田 英二

会社人間として 40 数年間の長きに亘りサラリーマン人生を送ってきた。今考えると人生の大半の時間を費やしてきたのだが、大なり小なりの失敗も乗り越えながら黙々と働いていたように思う。私生活では、結婚し新婚時代もあったし、3 人の子供にも恵まれ育てあげ、それなりに人生の中で一番活動的で楽しく有意義な家庭生活を過ごせたと思っている。仕事は、土木関係の業務に携わり自分に適した仕事と思えたのだが、しかし業務の遂行となると好むと好まざるとに関係なく、期日に追われる日々であったと思う。さらに組織の中で働くことは少なからずジレンマを感じることでもあった。それでも業務を担当し苦労しながら纏めたものが、形となって完成し機能することを実感できることは充実感が得られることでもあった。

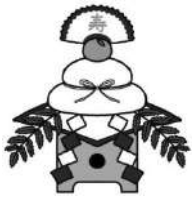
月日の流れは速いもので定年という終着駅に着いた時には、嬉しいような寂しいような感覚になったものだが、幸にも非常勤での再出発を送れることとなった。しかし責任ある仕事はない、自ら業務の資料作りに打ち込んだり、営業活動のお手伝いをすることもあった。このように半分は会社人間を継続しながら、半分は自由で気儘な生活を送り、中途半端の中にも満足感を感じながら、旅行、ウォーキングや散策、ゴルフ、囲碁ボランティア、映画館、図書館、美術館等のお決まりのスタイルに流されていた。

そんな折、平成 25 年の秋に「ふじさわボランティアセンター」によるボランティア講座があり、それに参加したところ「ささえ」のセンター長であった中島知子さんと長谷川泰子さんにお会いし「ささえ」の理念「出来る時に、出来ることを！」を教えられ、感銘して平成 26 年の 1 月に「ささえ」の支援会員になった。鵠沼に移り住んで 3 年半で初めて地域活動サークルに所属することとなった。そして同年の夏に、長谷川さんのご主人・元保さんにお会いする機会があり、そこで「くげぬま探求クラブ」を知るところとなる。クラブの HP を覗いて見たとき時は衝撃を覚えた、男性だけのクラブであること、そして 20 数種の部会活動があることを知り、驚きを禁じ得なかった。これからのシニア人生における必要不可欠のツールを見出した瞬間でもあった。9 月には面接に合格し晴れて探求クラブの会員になることが出来たのである。現在継続できている部会は、藤が谷公園愛護会、ヤングハーツ、子どもと遊ぶ会、鵠っ子囲碁･将棋ルーム、災害研究部会、ヤングブラザーズ、くぐひ制作部であり有意義な活動をとおして多くの仲間に出会えたことが、励みとなり生きがいになっている。

さらに3年前には地域の町内会長から要請を受けて、民生委員･児童委員および鵠沼地区社会福祉協議会の理事を務めることとなり、地域活動も広がりを帯びてきた。これからは、堅実に歩むことで自縄自縛な活動にならぬように心掛けて行きたいと思っている。

40 数年の長きにわたる会社人間・家庭人間を経験したことを土台とし、2 年間の中途半端な気儘人間を体感したことも加味し、今は地域における社会人間としての経験を少しずつ歩み始めたところである。

編集後記　新春を迎え、「くぐひ」も区切りの 100 号に達した。本号では歴代の編集長に執筆頂いた。恒例の公民館まつりは 43 回を数え、開催結果につき各イベント責任者の投稿を掲載、天候にも恵まれ、盛況であった。本年の年男は 7 名おられ、思い思いのエピソードを披露。中には代わってあげたいような話も。シリーズ「我が家の災害対応作戦」には米倉さんが登場、ユニークな体験をユニークな視点で紹介。「くぐひ 100 号によせて」では 25 年の変遷を彷彿とさせる話が先輩編集長から寄せられた。「私の趣味」のコーナーには多趣味の畑中さんが投稿。部会紹介欄は「談話室」の田中力さんと「おもちゃの病院」の池田雄さんが執筆、おもちゃの病院には「患者」からの感謝の手紙も寄せられた。玉田さんは入会前後の変化を「ビフォア・アフター」に披露。本号は 5 年ぶりに 12 ページ建てとなった。なお、本号より編集委員の代表の呼称として現在使われている「編集人」から
より分かりやすい「編集長」に変更する。　（塩爺）



会報　くぐひ　第 100 号
2020 年 1 月 1 日
発行 くげぬま探求クラブ
発行人 奥村 誠
編集長 塩川 昌男